

第 25 回小児リウマチ学会学術集会は 10 月 9 日～11 日まで金沢市の歌劇座で行われた。本学会はその名の通りリウマチ性疾患を主題とした学会であり、若年性特発性関節炎 JIA に付着部炎型 ERA および乾癬性関節炎型 PsA が含まれることもあり、多発性付着部炎に対する討論が期待されたが、一昨年の学術集会には設けられていた付着部炎のセッションは無く、それに焦点を絞ったディスカッションもほとんど行われなかった。

特別講演は、Paediatric Rheumatology European Society の Prof. Martini により”Biological therapies in juvenile idiopathic arthritis”のタイトルで行われたが、ERA や PsA に対する治療の話はなかった。またシンポジウム”バイオ時代における JIA 管理のポイント”でも、同様に言及はなかった。

画像診断のワークショップでは、FDG-PET/CT 検査が診断に有用な小児リウマチ性疾患として、ERA の報告が愛媛大学よりあった。疼痛のワークショップでは、三つの演題のうち一つ目が線維筋痛症 FM に合併した小径線維ニューロパチー（秋田赤十字）、三つ目が子宮頸がんワクチン接種後の疼痛障害における自己抗体の関与（八尾市立）が主題であり、付着部炎における疼痛の病態理解にも参考となる発表であった。

一般演題では PsA の 2 例（あいち小児保健セ）、FM の診断基準を満たす慢性疼痛症例でのエコーでの ERA 所見（京都府立医大）が報告された。若手演題優秀賞は、研究部門は慢性疼痛合併症例 ERA の comorbidity における自律神経障害の評価（京都府立医大）に、症例部門は ERA にトシリズマブした例における臨床像（京都府立医大）にと、共に多発性付着部炎関連の話題に送られた。

来年、第 26 回の学術集会は千葉で行われる予定である。付着部炎を中心とした講演や一般演題が増えることが望まれる。